

1) 健康管理について

- 健康管理においては、健康診断によるスクリーニングが重要となる。このため学生定期健康診断の検査項目の追加や健診体制の見直しを行った。また職員定期健康診断も検査項目の追加や検査方法を変更し、精度の向上ならびに疾病の早期発見に努めた。健康診断の結果をもとに必要な応じた保健指導を実施するとともに、健康談話会を開催して生活習慣病に関する啓発を行った。その他、留学や実習に参加する学生に対する健診の実施・健康診断書の発行や、機関誌「Healthy Ryukoku」(3回)、「健康管理センター年報」を発行した。今後は学生・教職員のメンタルヘルスおよび生活習慣病予防等の対策が大きな課題であり、新たな体制のもとで取り組みを進めていく。
- 2006年度に引き続きAEDを設置した。ほぼ全ての建物に配置したこととなり、設置台数(52台)は全国の大学で最大規模となる。これに併せて学生や教職員を対象とした救命講習会を11回開催し337名が受講した。救命指導を行える応急手当普及員資格も7名(合計13名)が取得している。龍谷祭実行委員会等の学生が自主的に講習を受講する等、学生・教職員が積極的に取り組んだ結果、NHKのニュース番組で紹介され、また伏見消防署から防災功労団体として表彰される等、地域から高い評価を受けた。
- 麻疹(はしか)が全国的に流行し多くの大学が休講措置を講じる事態となった。これに対応するため「はしか対策本部」を設置し情報収集や対応策の検討にあたった。本学でも6名の学生が麻疹と診断されたが、徹底した注意喚起や、抗体検査(合計4,715人が受検)等の対策を実施した結果、学内での2次感染は確認されなかった。
- 健康管理センターによる「学生の喫煙状況調査」、学生主催の「卒煙シンポジウム」、「全学協議会」における学生からの要望、衛生委員会からの具申等を受け、快適な教育環境の確保ならびに学生・教職員の健康維持を図るため、2009年度の敷地内全面禁煙を目指して取り組みを推進することを決定した。

2) 診療について

3学舎において内科の診療を実施し、深草学舎で開設していた「心療内科」は休止した。また、2008年度から新たな体制で精神科を開設することを決定した。

その他、2007年度に実施した特筆すべし診療事業は以下のとおりである。

- 瀬田診療所における診療日を増加(週4日から週5日に変更)
- レセプトコンピュータの導入による業務の効率化